発行所
三池炭鑛勞働組合
大牟田市不知火町
電話3033番
炭電 528 475 番
編集兼発行人 平島敏治
三鉱労組印刷工協

三鉱労組機関紙

国際自由労連について脱退か！反對かを！

今次炭労大会で決議する資料

九月二日から北海道で開催される第十一回臨時大会では既報のごとく、デフレ下の賃金斗争を如何に進めるかという問題と、大会で度々問題になる國際自由労連脱退の問題が、本年四月の第十回大会より、大衆討議がなされていないとして、今次大会に持込まれることになっている。このことについて炭労中央執行部としては自由労連のなかにとどまって、われわれの立場を強く反映するという見解を下している。

再軍備賛成だから平和勢力として脱退だ

炭労をはじめ国際自由労連に加盟している総評傘下の組合では大会毎に自由労連脱退問題が繰返し行われているが、その脱退の理由として、第一に国際自由労連は再軍備の問題に対し、現在までその態度を明らかにしていないだけでなく、日本の再軍備問題に対しては自由労連はむしろ「自由国家を守る」との観点から賛成していたという点であろう。日本は現在MSA再軍備の重圧によって国民大衆は塗炭の苦しみをなめているのである。この外脱退理由を箇条的に掲げてみると

①国際自由労連結成のイキサツからみてもアメリカが主役を演じていることは明らかである。

②国際自由労連は日本の再軍備に賛成している。

③国際自由労連は、世界の労働者の統一を拒否している。

④自由労連はあまりに西欧に偏している。

⑤総評の行動方針と矛盾している。将に平和を守る方向について総評と自由労連は対立している。

⑥MSA協定に対し国際自由労連は賛成している。

組織内に止まって再軍備反對闘争を行へ

民主々義諸国家は戦争政策はとっていない。問題になるのはアメリカの戦争政策である。現在アメリカは自由諸国の間でも完全に孤立している。したがって決議を行ったとや、全炭鉱（常自由労連の内部にとどまって根炭連と日鉱）の自由労連加盟を正式の機関で拒否しているとなど強く、かれらに日本の再軍備反対闘争の意義を理解させるべきを掲げている。

自由労連脱退は再軍備派の思うツボだ

以上が脱退理由で特に総評大会決定の軍事基地反対、朝鮮戦争即時停戦のアッピールに対し自由労連はそれを握りつぶした。このことが一層自由労連に対する批判となっている。

②脱退した場合に、国際的な労働運動の提携の方向をどこに求めるべきか、世界労連にも自由労連にも加盟しないで、われ〳〵の主張を反映させることが出来ない。一昨年の六十三日の炭労のストの場合に自由労連は炭労の激しい闘争とその正しさを全世界に伝へ大きな反映があった

③世界労連に対する認識であるが

④われ〳〵は自由労連に対する批判をもっているし、今後も積極的に批判して、一日も早く国際的な労働運動の運動の提携を推し進める。

国際自由労連については批判はあるが脱退すべきではないという意見が多数を占めるとも相当あるが、それを集約すると

①国際自由労連を脱退した場合、国際的な労働運動の運動をどこに求めるか世界労連と自由労連との中間で自分に部合の好い時に共闘を組むということは組織の「いろは」を知らない理論のゴマかしである。

②組織の脱退ということは軽々しく行うべきでない、総評も結成以来いろ〳〵闘わない組合として批判があったが、現在では総評は平和勢力の中心となっている。国際自由労連もいろ〳〵批判はあるが徹底的にこれを検討して下部大衆とともに闘える組織に拡大強化すべきだ。

③再軍備反対闘争のためにも自由労連から脱退すべきではない。現在の国際情勢から判断して、ソ連、中国およびその他の人民民主々義諸国家は戦争政策はとっていない。問題になるのはアメリカの戦争政策である。現在アメリカは自由諸国の間でも完全に孤立している。したがって決議を行ったとや、全炭鉱（常自由労連の内部にとどまって根炭連と日鉱）の自由労連加盟を正式の機関で拒否しているとなど強く、かれらに日本の再軍備反対闘争の意義を理解させるべきを掲げている。

自由労連脱退をめぐる賛否の主張は前述の様にはっきりしている。この情勢の中で中央執行部は自由労連に対して鋭い批判をもっているが　何故自由労連の脱退の決意を固めないか次の通りその理由を述べている。

①いまは自由労連の内部闘争を徹底的に推し進めるべき段階である。特に再軍備、MSAの重圧のヒモを断ち切る闘争を進める仕事が専門となる。これに反して下部組織の委員は、職場の日常闘争を積極的精力的にとり上げて組合のエネルギーを常に強力にする仕事が専門となる。そして、この上下の委員が組合の力量を当面の全体的情条件中で与う闘えば最も効果的かつ

②脱退した場合に、国際的な労働運動の提携の方向をどこに求めるべきか、世界労連にも自由労連にも加盟しないで、われ〳〵の主張を反映させることが出来ない。一昨年の六十三日の炭労のストの場合に自由労連は炭労の激しい闘争とその正しさを全世界に伝へ大きな反映があった

③世界労連に対する認識であるが

④われ〳〵は自由労連に対する批判をもっているし、今後も積極的に批判して、一日も早く国際的な労働運動の運動の提携を推し進める。

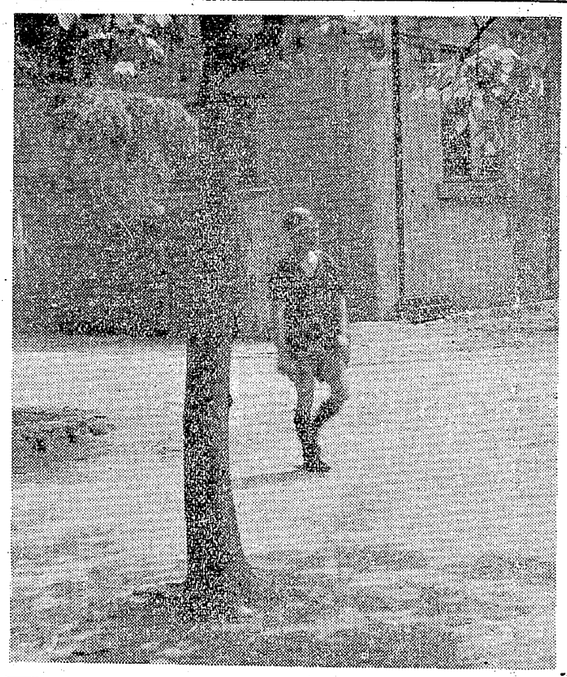
国際自由労連については批判はあるが脱退すべきではないという意見が多数を占めるとも相当あるが、それを集約すると

①国際自由労連を脱退した場合、国際的な労働運動の運動をどこに求めるか世界労連と自由労連との中間で自分に部合の好い時に共闘を組むということは組織の「いろは」を知らない理論のゴマかしである。

②組織の脱退ということは軽々しく行うべきでない、総評も結成以来いろ〳〵闘わない組合として批判があったが、現在では総評は平和勢力の中心となっている。国際自由労連もいろ〳〵批判はあるが徹底的にこれを検討して下部大衆とともに闘える組織に拡大強化すべきだ。

③再軍備反対闘争のためにも自由労連から脱退すべきではない。現在の国際情勢から判断して、ソ連、中国およびその他の人民民主々義諸国家は戦争政策はとっていない。問題になるのはアメリカの戦争政策である。現在アメリカは自由諸国の間でも完全に孤立している。したがって決議を行ったとや、全炭鉱（常自由労連の内部にとどまって根炭連と日鉱）の自由労連加盟を正式の機関で拒否しているとなど強く、かれらに日本の再軍備反対闘争の意義を理解させるべきを掲げている。

自由労連脱退は再軍備派の思うツボだ



鑛山の初秋

西村改良

前進

疑獄内閣打倒に國民總抵抗の運動を起せ

吉田首相は八月十日の自由黨支部長会議で、造船疑獄に対する指揮権發動に関して所見をのべ「指揮権發動に政府は信念をもって行った。汚職の内容は幹事長を逮捕しなければ証據が集らないでは當局の能力を疑わざるを得ん」「疑獄事件は新聞がデッチあげ、検事がこれにのったのだ」といっている。まことに検察當局は指揮権以来全く権威を下げ暴力立法機關と疑獄行政機関とならんで無能司法機關を露呈し全く三権に対する國民の信頼は裏切られた。

もともとワンマン吉田茂として狂人であれば話は別であるが、いやしくも一國の首相が、己が勢力や政治生命を延ばすために自らが疑獄のにぎりつぶしをするため、信念をもって指揮權を發動したり政黨の帳簿は不正確なのが当りまえで、こんなことで一黨の幹事長を逮捕することは基本的人権の問題である（裏をかえせばこんなことで疑獄をあばき出すなという意味）という暴言を吐いている。これは國民として断じて許すことは出来ない。

この吉田暴言に対し野黨は勿論野黨四派の臨時國会開催申入れについて、緒方副總理は、首相外遊後でなければ開かないといっている。この外遊は疑獄と野黨攻勢に対するホトボリをさますためであり國民を裏切り、向米一邊倒の政策を施す自由黨の最後の身賣りより外ならない。

一國の首相が莫大な國費を使用して外遊する。その目的を明らかにしないほど、主権である國民を冒瀆した行為はない。吾々は総評を通じ、革新政黨とともに首相の外遊を阻止し、速かに臨時國会を召集し政府が真摯な氣持で國民に信を問うまでもなく自らが反省し総解散して、國民のための政治をうちたてるよう國民総抵抗の運動を捲き起さねばならない。

与黨内部、言論機關などの攻勢が現れて來ている。両社は當然臨時國会を早急に開いて第十九國會の始末をつけなければならないので一大攻勢に出ることは必至でありまた両社を支持する勤労者に對する義務でもある。

この情勢下に改進、日自黨の出方に期待をかけるのではないが注目される。改進黨の準与黨的な性格と保守合同への動きがブレーキとなり國民の希求する吉田内閣打倒のコースをたどることは至難であろう。

そこで革新政黨と勞働者がこの際緊密な連繋のもとに口だけの、只スローガンだけの吉田内閣打倒でなく足もとから一歩一歩彼等の野望を粉粉せねばならない。

寄稿

職場闘争と全體的闘争の関連に就て

—港務支部の職場闘争の意義—

東大助教授　田藤若雄

「ないけ」三四一号の附録に港務支部の職場闘争というのがのっている。それは「職場会議を開き、働くうへでの色々な条件、苦情など、日常作業の問題をみんなが持ち寄って話合い、これを集約の上、組合とも相談して夫々の職場係長に苦情処理申入れを行い、現場で協議の結果、大体において満足できる結論を生んだということである。

この闘争のやり方は今日決定的に重要であると思う。なぜなら、今日は労働運動は大きく岐路に立っており、したがって華々しい議論だけが注目の的となったり、強い強いといわれる組合が実は大したことなく、組合人事の問題だけでしか湧き立たないといった状態がある。昂揚は雲か霧のように大地から離れて天上に浮び上って行くおそれがある。だから、労働組合運動を大地につける運動というものが強力に存在しなければならないのである。この意味で職場闘争を地味に実行する運動が出て来なければならない。このことは、組合役員、委員の在り方と関連する。労働組合の組織が上部と下部の組織をもつ以上、当然に組合役員や委員にも上部の役員と下部の委員が存在しなければならない。上部役員と下部委員との間には必然的に仕事の分離というものが生れる。上部役員になればなるほど全体的視野の中に自己の組合運動を位置づける仕事が専門となる。これに反して下部組織の委員は、職場の日常闘争を積極的精力的にとり上げて組合のエネルギーを常に強力にする仕事が専門となる。そして、この上下の委員が組合の力量を当面の全体的情条件中で与う闘えば最も効果的かつ

これが巧みに組織される場合、その組合は強力となる。しかし多くの場合は上と下の委員のネスト争いということになるが、今日までの傾向であった。昂揚は雲か霧のように大地から離れて天上に浮び上って行くおそれがある。だから、労働組合運動を大地につける運動というものが強力に存在しなければならないのである。この意味で職場闘争を地味に実行する運動が出て来なければならない。このことは、組合役員、委員の在り方と関連する。労働組合の組織が上部と下部の組織をもつ以上、当然に組合役員や委員にも上部の役員と下部の委員が存在しなければならない。上部役員と下部委員との間には必然的に仕事の分離というものが生れる。上部役員になればなるほど全体的視野の中に自己の組合運動を位置づける仕事が専門となる。これに反して下部組織の委員は、職場の日常闘争を積極的精力的にとり上げて組合のエネルギーを常に強力にする仕事が専門となる。そして、この上下の委員が組合の力量を当面の全体的情条件中で与う闘えば最も効果的かつ

いう調整をしなければならないこと。

このことは、上部の役員、下部の委員がその本来的な専門任務に一層有能になる以外にない。専門事項に有能であるだけ、相互協力、相互調整の重要が理解されるのである。

今日は、職場闘争の必要とか日常闘争の必要は耳にタコができる迄に説かれている。しかし実践は極めて乏しいのである。労働運動は何よりも実践である。港務支部の苦情闘争はこの意味で貴重である。人は苦情などと書に見られるようにその規模においても、統制力の点においても素晴らしいものがある。しかしながら、アメリカの労働運動は、平和闘争の面においては、全く一方的な認識に立っていることは否定出来ない。特に自由労連の中で、アメリカの組合が一つの大きな「ガン」になっていることは否定出来ない。われわれは今後自由労連のなかの特にアジアの労組と連携して、日本の闘争力を組織するかという問題を強く突き上げて、かれらに理解させる問題がある。

このことは、上部の役員、下部の委員がその本来的な専門任務に一層有能になる以外にない。専門事項に有能であるだけ、相互協力、相互調整の重要が理解されるのである。

今日は、職場闘争の必要とか日常闘争の必要は耳にタコができる迄に説かれている。しかし実践は極めて乏しいのである。労働運動は何よりも実践である。港務支部の苦情闘争はこの意味で貴重である。人は苦情などというこまかい問題をとらえて大きな論議に浮身をやつしたが。苦情こそは、職場の日常要求であるのだから、これをとり上げ具体的に処理するのでなければ職場委員は仕事を為っていることになる。

人は三鉱運の一二三日の華々しい闘争に目を奪われて、三池の四山坑支部が「現業協議会」「職場協議会」の中に労働条件の具体的事項をとり含み、労資協調の制度に脱していた経営協議会の性質をひっくり返して組合の組織を下部から強化して行く運動があったことを忘れている。かような積上げ闘争があったからこそ「三池」は、「三鉱運」は二三日も闘えるようになったのであった。一の闘争が終れば資本の側の政略も変化する。今日では三井資本の労働政策も非常に変化している。組合はこの新らしい対策に対応しなければならない。

その重点は何か。大衆の要求を新しく、しかも今日具体的にとりあげることの出来る能力のある下部委員が結出し、その大衆的エネルギーを如何に組織するかについて上部の全体的視野に立つ役員とが協働闘争の組織化を検討することにある。あ

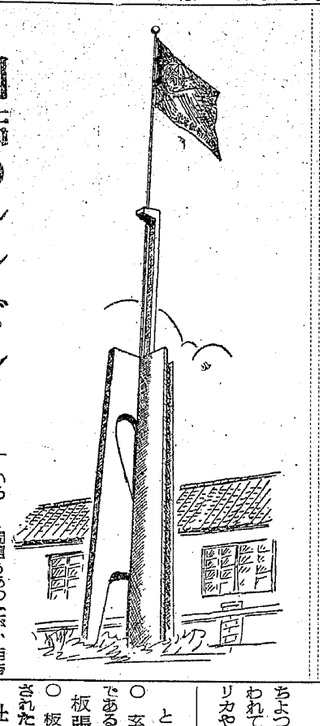
りきたりの方法でなく、常に新しく具体的問題をとり上げることの出来る人々こそ重要である。港務分会の闘争はその一つのあらわれであるといえよう。

団結のシンボル

組合旗掲揚臺工事に着手

昨年の首切闘争で働者を拒否して退去デモの一周年に間に合う様本所建設の組合員の人々が努力されている。

この組合旗掲揚台をうけた古賀厚生部長は首切働者をうつくるに当りこの掲揚台をつくることになり、八月中旬より工事に着手して九月四日の首切働者の慰霊祭に間に合わせた。



いろ〳〵問題もあったが、拒否者の皆さんの理解でこの組合旗掲揚台をつくる運びになったことは嬉しい。われ〳〵はこの旗のもとに、あの苦しい闘いを私たち一代でなく孫子の末までこの世に労働者がある限り団結のシンボルとしていきたいものである。

（出版は掲揚台）

職場や地域の要求をウャムャにしないで

前段闘争に組込んで闘うぞ

職場のすみずみから起って来ている〳〵な要求を各鉱、事業所で労使協議会を開いて解決し、なお解決しない面については中央に集約して要求事項をとりまとめ、九日、十日の二日間にわたり第五回の中央労使協議会を開き　二十四日一応の対立点を明確になしめた。今次の闘いは重層の前段闘争としてとらえ労働者はこの帝国主義国内情勢の中で急速な成長をなしていてはは28年上期に比し一割天引されている、三鉱運と本店と話合った時は天引したことはないので山元で話合ってくれということであった28年下期にさかのぼって増額してもらいたいのだが、28年下期については過去の問題であるから29年上期以降についても増額されたい　ヒサシ組長以降の分は特別工事として実施されたい。

× 29年下期の予算については増額するよう努力する。29年上期の予算増額はできない。但し臨時工事は28年上期に比し一割天引されている、三鉱運と本店と話合った時は天引したことはないので山元で話合ってくれということであった28年下期にさかのぼって増額してもらいたいのだが、28年下期については過去の問題であるから29年上期以降についても増額されたい　ヒサシ組長以降の分は特別工事として実施されたい。

× 29年下期の予算については増額するよう努力する。29年上期の予算増額はできない。但し臨時工事は28年上期に比し一割天引されている、三鉱運と本店と話合った時は天引したことはないので山元で話合ってくれということであった28年下期にさかのぼって増額してもらいたいのだが、28年下期については過去の問題であるから29年上期以降についても増額されたい　ヒサシ組長以降の分は特別工事として実施されたい。

× 水道の確保、使用量の規制、社宅の将来性、緩急順序並に予算措置上の可能性を含め八月中に調査研究し回答する。

社宅浴場増設及び拡張の件

○ 朝日ケ丘、小川興、緑ケ丘小鳩町の社宅浴場を新設、文部部を拡張されたし。

× 工事全般の緩急順序をにらみ合せ、将来の問題としては否定しないが早急実施は不可能なので、

○ 社宅によっては各戸水道のところがあるが、大部分の社宅は四戸に一個又はそれ以上の所があり主婦の炊事に支障があるので設置されたい。各戸水道が設置されゝば現在の共用栓は洗濯場としたい。

× 水道の確保、使用量の規制、社宅の将来性、緩急順序並に予算措置上の可能性を含め八月中に調査研究し回答する。

社宅浴場増設及び拡張の件

○ 朝日ケ丘、小川興、緑ケ丘小鳩町の社宅浴場を新設、文部部を拡張されたし。

× 工事全般の緩急順序をにらみ合せ、将来の問題としては否定しないが早急実施は不可能なので、

○ 現在入居希望者九〇〇名位あり入居できずに居るので増設されたい。

× 退職機留者の退去、空戸の活用並に自然消耗の見込を考慮すれば社宅は不足しない。従って増設の必要は認められない。雑用戸数の処置、退職機留者退去の処置、並に社宅の再配分については方針を説明する。

診療所拡張の件

○ 宮浦＝勝立…拡張、長浦…新設、三川＝四原…新設、野添…拡張、新港…移設　本所＝七ケ…新設、小浜…新設　原…新設

× 七ケ保育園は新設する　西原保育園は現集会場を保育園として開設する　勝立保育園は拡張工事を実施する　三川新港保育園は中央工場集会所を改造開設する　原保育園は将来の問題として研究する　野添保育園は西ケ平極されたい。

庇延長の件

○ 庇が二尺位しかなく、日も入るし、雨も降り込むので延長されたい。

漏縁設置の件

○ 炭住社宅が主体であるが漏縁がないところを設置されたい。

物置設置の件

○ 独立して設置できる社宅もあるし、突き出して作れるところもある。夫々に応じて設置されたい

開戸を引戸に改造の件

○ 採光が悪く戸締りが不十分であり風が吹くと騒々しい。

漏縁を内縁に改造の件

○ 長屋関係であるが隣戸の外に入つたものを購入した時は実費を会社負担として貰いたい。

× 現行通り実施したい。矛盾があればお零負会をもつて検討して考えたい。

社宅浴場体重計設置の件

○ 健康保持上必要であるので各社宅浴場に一台づゝ設置されたい

× 予算の許す範囲で逐次実施する。

社宅管理の件

○ 二支部又は数支部入居している社宅を一鉱所で管理しているために差別待遇がある。平等に管理されたい。

× 差別待遇はしない。問題が起った場合は直ちに善処する。

門鑑廃止の件

○ 門鑑は現在不用な状態である廃止されたい。三井六山において三池だけ実施している。

× 外来者の不法入所を防止する具体策があれば廃止してもよい。従って「この具体策を」なお一層研究したい。

靈柩車購入の件

○ 現在組末な手引靈柩車があるが、社宅がはなれているし、手引車で行くに忍びない。社葬の場合をかね一台設置されたい。

× 靈柩車は購入しないが、現行手引靈柩車が破損しているものは修理する。なお車をタイヤーに切替えることも考えたい。

奨学資金に関する件

○ 授業料及び学費が上っている。

× 学費の上昇額、適用の範囲について調査の上善処する。

入浴料金廃止の件

○ 廃止されたい。

× 廃止しないが徴収方法については考慮したい。

燃料増配に関する件

○ 三月分配給の不足分を増配方要求していたがそのまゝになっている。二十キログラム増配された。毎月配給の六十キログラムは二十五日分しかないので五日分増配されたい。

× 三月分コークスの配給による不足を含み各場において二十キログラム増配する。

四山支部指定店

川原洋服店　銀座通り
西坂家具店　上一町　電二八九四番
ミツキー靴店　有明町　電二四七一番

三川地區

たごもり　三川町三丁目　電六一二五番
ゑみや服地店　三川町六ツ角　電六二五八番
田島屋　三川町四丁目　電六二一五番
郷田呉服店　三川町四丁目
高原衣料店　三川町早米来
西田洋服店　三川町一丁目　電六一九四番
泉田洋服店　三川町五丁目　電六一六三番
古賀時計店　三川町四丁目
平賀時計店　三川町四丁目
富士屋　三川町四丁目
九州ミシン　三川町四丁目　電六三〇六番
銀座通　電四〇四三番
吉川電氣商會　三川町三丁目　電六三二八番
四山厚生靴店　四ツ山社宅
ワシントン靴店　三川町六ツ角　電六二五六番
米村自轉車店　四ツ山社宅

大牟田地區

川原洋服店　銀座通り
西坂家具店　上一町　電二八九四番
ミツキー靴店　有明町　電二四七一番

荒尾地區

古賀呉服店　荒尾県廠　電話一三六番
大萬呉服店　荒尾県廠　電話三一五番
二神洋服店　荒尾県廠
染矢雑貨店　大正区　電話二一〇番
濱村専心堂　上小路　電話二一三番
田中衣料店　緑ガ丘三中前
すみれ洋装店　荒尾県廠　電話三二六番
荒木家具店　荒尾県廠　電話三〇八番
小鹽洋品店　荒尾県廠　電話三七七番
田中洋服店　大正区　電話二六六番
吉澤自轉車店　大牟上区　電話二五二番
山坂ラジオ店　四ツ山大通り

自由労連の動きを

もう少し情宣して呉れ

本の特殊な問題を強く突き上げて、かれらに理解させる問題が必要である。

さらに自由労連より脱う組合が脱退したならば、再軍備に賛成している海員組合をはじめ、全労の思うツボである。

では果して組合員の人々は如何に考えているか、通信連絡員を通じて入手した分のみ掲載する。

三川 採炭工　先づ執行部に文句を言うようだが、この自由労連、世界労連の宣伝をもう少しやって頂きたい。今のところどうでも好いというのが私の考え方だ。

三川 外運工　私は脱退賛成です。私達が苦しい労働をし、安い賃金で働いているのは、MSAのためです。それを支持する自由労連は嫌です。

三川 通勤電車内　もっと慎重に考えてやるべきでしょう。何故なら自由労連、とくにアジアにおいては非常に平和問題が真剣になったので……。

本所 看護婦　ちょっと自由労連や世界労連といわれてもわかりません。只、アメリカやソ連のどちらきで、日本の現在おかれている状態は社会主義革命の前にたっているのであるが、自由労連の国際労働組合の状態もまた資本主義の支配と搾取の下におかれているがゆえに、相互の間には多かれすくなかれ共通の悩みと共通の要求があり、共同闘争を組める条件をもっている。

④われ〳〵は自由労連に対する批判をもっているし、今後も積極的に批判して、一日も早く国際的な労働運動の運動の提携を推し進める。

国際自由労連については批判はあるが脱退すべきではないという意見が多数を占めるとも相当あるが、それを集約すると

①国際自由労連を脱退した場合、国際的な労働運動の運動をどこに求めるか世界労連と自由労連との中間で自分に部合の好い時に共闘を組むということは組織の「いろは」を知らない理論のゴマかしである。

②組織の脱退ということは軽々しく行うべきでない、総評も結成以来いろ〳〵闘わない組合として批判があったが、現在では総評は平和勢力の中心となっている。国際自由労連もいろ〳〵批判はあるが徹底的にこれを検討して下部大衆とともに闘える組織に拡大強化すべきだ。

③再軍備反対闘争のためにも自由労連から脱退すべきではない。現在の国際情勢から判断して、ソ連、中国およびその他の人民民主々義諸国家は戦争政策はとっていない。問題になるのはアメリカの戦争政策である。現在アメリカは自由諸国の間でも完全に孤立している。したがって決議を行ったとや、全炭鉱（常自由労連の内部にとどまって根炭連と日鉱）の自由労連加盟を正式の機関で拒否しているとなど強く、かれらに日本の再軍備反対闘争の意義を理解させるべきを掲げている。

自由労連脱退をめぐる賛否の主張は前述の様にはっきりしている。この情勢の中で中央執行部は自由労連に対して鋭い批判をもっているが　何故自由労連の脱退の決意を固めないか次の通りその理由を述べている。

①いまは自由労連の内部闘争を徹底的に推し進めるべき段階である。特に再軍備、MSAの重圧のヒモを断ち切る闘争を進める仕事が専門となる。これに反して下部組織の委員は、職場の日常闘争を積極的精力的にとり上げて組合のエネルギーを常に強力にする仕事が専門となる。そして、この上下の委員が組合の力量を当面の全体的情条件中で与う闘えば最も効果的かつ

これが巧みに組織される場合、その組合は強力となる。しかし多くの場合は上と下の委員のネスト争いということになるが、今日までの傾向であった。昂揚は雲か霧のように大地から離れて天上に浮び上って行くおそれがある。だから、労働組合運動を大地につける運動というものが強力に存在しなければならないのである。この意味で職場闘争を地味に実行する運動が出て来なければならない。このことは、組合役員、委員の在り方と関連する。労働組合の組織が上部と下部の組織をもつ以上、当然に組合役員や委員にも上部の役員と下部の委員が存在しなければならない。上部役員と下部委員との間には必然的に仕事の分離というものが生れる。上部役員になればなるほど全体的視野の中に自己の組合運動を位置づける